その方のために私たちができること

皆さんはショートステイという介護サービスをご存じですか？

さまざまな理由により一時的に在宅で介護できない場合に、数日間施設に宿泊し、ふだんの生活・介護を施設職員がご家族に代わり行うサービスです。

今回は、ご利用されている利用者の方の事例を交えその内容をご紹介します。

ケアマネージャーと職員が訪問しお話を伺います

家にいたい

小嶋ヒナヲ様（95歳）は平成22年12月ご自宅で転倒し骨折されました。

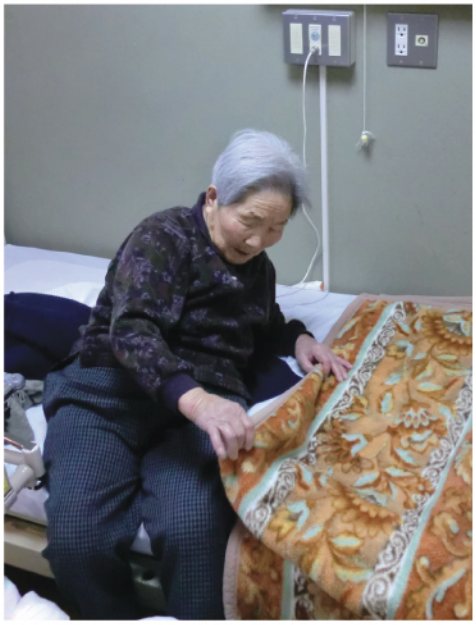
歩くことができなくなり、移動には車椅子を使用しなければならなくなりました。入院中小嶋さんは「もう、家には帰られんのやろ？」と悲しまれたそうです。

ちょうど同じころ、主に介護をされているお嫁さんも体調をくずされ「お母さんが家に戻ってきても介護する自信がない」と思われたそうです。しかし、小嶋さんの「家で暮らしたい」という想いをくみ取り、ショートステイを利用する運びとなりました。

帰る！

小嶋さんは気難しいところがあり、ショートステイのご利用当初はトイレでの介助、お風呂へのお誘いも断られることが多くありました。

また「帰る！」と大きな声で出口を探され、職員が話をしても「私のことなんてにんならんやろ！（関係ないやろ・構わないで）」といつも怒り口調で話をされていました。笑顔や言葉数も少なく、他の利用者の方にも声をかけて帰ろうとされることもありました。



帰る前に、使った布団を整える小嶋さん

ここは私の部屋や

小嶋さんの不安を取り除くため、毎回同じ部屋で過ごしていただくことで「ここが私の部屋」という安心感をもち、ショートステイに慣れていただけるよう工夫しました。

何回かご利用されるうちに、その部屋を指差して「ここは私の部屋や」と認識されるようになり、ご自宅に帰られる日にはご自分の使われた布団を綺麗にたたんで帰られるようになりました。その他にも、焦らずにご本人のペースを大切にし、小嶋さんの想いや、昔の話などをよく聴くようにしました。このような工夫をすることで、ショートステイも小嶋さんの居場所だということを少しずつ受け入れてくださいました。

職員との関係も良好

今日も泊まる日

現在は、トイレで「手伝いますか?」と声をかけると「お願い」と素直に応じてくださり、入浴も快くされるようになり「いいお湯やった」と満足そうに言われています。

また、他の利用者の方と楽しそうに会話をされ、帰られる日でも「今日も泊まる」と言われることもあります。いつでも会話の中心となり、周りを明るくしてくださっています。

思い出のアルバム

年忘れ会で、スーパーボールをつり上げようと一生懸命でした。

運動会レクの魚つりゲームで5位になりました。

クリスマス会でうさぎの耳をつけてニッコリ。

お嫁さんに、ショートステイをご利用されるようになってからのお話しを伺いました。

Q ショートステイを利用することに不安はありませんでしたか?

A 愛全園のデイサービスを利用していて、コミュニケーションもとれていたので、特に不安はありませんでした。

Q 利用してご本人、ご家族が変わったことは?

A 本人は時折大きな声を出す事はありますが、精神的に落ち着いていると思います。私たちは身体的にも楽ですし、用事もできるので助かっています。

私たち職員は、ふだんから利用者の方お一人おひとりに目を向け、耳を傾けています。また、日々変化する心と体の状態に早めに気づき、どのようにさせていただくと良いのか、日々模索しています。

また、ご家族に対しては、悩みを伺い一緒に考えながら、心の支えになりたいと思っています。

小嶋さんも、車いすでの散歩から戻られると、今では「帰りました」と笑顔で言われるようになりました。

これからも、利用者の方の笑顔をひとつでも増やせるよう、職員一同お手伝いさせていただきます。

みんなの広場

「笑顔」は元気の源

利用者の方の笑顔に元気をもらい、利用者の方の笑顔のために頑張ることができます。そんな利用者の方の素敵な笑顔をご紹介します。